武道における型の役割及びパフォーマンスの研究

-弓道における地域活性化-

日大生産工 ○岡本 嵩弘 山本 壽夫

1. はじめに

武道とは柔道、剣道、弓道、などの総称である。弓道は和弓で矢を射て的中する競技ではあるが、一連の所作を通して、心身を鍛練する目的が色濃くでてある競技でもある。現在では全日本弓道連盟が中心となり、矢を射る際に行う一連の基本動作を八つの節に分けて指導・トレーニングを行っている。これを射法八節といい、的への的の中にはこれらの射型が重要とされているが、その技術的内容は、流派や個人の体格、思想等によって異なる。これらを踏まえ本研究では、武道における型の重要性、またそれらを駆使し、千葉県香取市をモデルに地域活性化について考察する。

2. 先行研究

先行研究として、次の項目に関する研究を前提とする。

① 日本武道に見られる思想

② スポーツイベントの持つ集客力

上記①ではビットマンハイコ (2004) 「日本武道に見られる思想の研究(その3) : 日本武道における「型」の一考察」を表すことができる。②では工藤 康宏 野川 春夫 (1997) 「スポーツイベントと地域活性化に関する研究 : スポーツ・ツーリストの観光行動の視点から」

を表すことができる。

3. 現状分析

3.1 香取市の人口推移

香取市役所ホームページの情報によれば、香取市の人口は以下のように推移していると表すことができる。表1を参照。

表1 香取市人口の推移

年度	人口	増減数
平成 27 年度	80,647	▲1000
平成 26 年度	81,647	▲1191
平成 25 年度	82,838	▲356
平成 24 年度	83,194	▲1123
平成 23 年度	84,317	-

(出典) 香取市ウェブサイト「住民基本台帳の人口」を参考に作成。

上記表1から平成18年10月から香取市の人口は減少しているということを表すことができる。

3.2 高校生の人口

香取市役所ホームページの情報によれば、平成26年度香取市の高校生の人口は以下のようになっていると表すことができる。表2を参照。

表2 平成26年度高校生の人口

学年	人数(人)
1年生	942

A study on role of style on budo

- Regional activation by kyudo -

Takahiro, OKAMOTO, Hisao YAMAMOTO

2年生	995
3年生	875

(出典) 香取市ウェブサイト「平成26年版香取市統計書」を参考に作成。

上記表2から平成26年の時点では2812人の高校生がいることを表せる。

4. 課題点および対応策

上記3を前提に、香取市において次の課題点を表すことができる。

- ① 香取市の人口は減少傾向にある。
- ② 香取市は高等学校授業で弓道を取り入れていない。
- ③ 弓道大会の参加者は多いにも関わらず、大会開催回数は2回と少ない。

上記の点に関する考察として次の内容を表すことができる。

- (1) 香取市の人口は減少傾向にある。人口回復するためには抜本的な対策が必要となる。
- (2) 香取市では弓道を取り入れていない。教育の観点から授業に弓道を取り入れ、競技人口の増加をはかることはできないだろうか。
- (3) 香取神宮のイベントと合同に開催されている弓道大会には多くの人が集まる。大会を地域活性化に活用することはできないだろうか。

上記考察から、次の対応策を表すことができる。

弓道の競技人数は一定数いるにも関わらず、それが地域活性化には生かされていない。弓道が香取市内の高校生に根付かせ、それを地域活性化に活用する必要がある。

① 高校生に根付かせるための対応策

弓道を活用し、地域活性化するためには弓道の競技人口を増加させ、市民にとって身近なものにする必要がある。そのために、高校授業のカリキュラムに取り入れ

[テキストを入力]

② 大会とイベントを地域活性化に活用する対応策

上記①を実施することにより高校生は弓道に関心を持つ可能性が高まる。

5. 検証

上記4対応策の検証として、次の内容を表すことができる。

① 高校生に根付かせるための対応策

高等学校の授業で弓道を取り入れることにより、高校生は弓道の関心が高まる。上記表2において、平成26年度の時点では2812人の高校生がいるので香取市内の弓道人口を高めることができる。

② 大会とイベントを地域活性化に活用する対応策

300人規模の大会を年に複数回行うことにより地域活性化を行うことが可能となる。また、これらの活動を行うことにより香取神宮のイベントと大会規模のさらなる拡大を望むことができる。

6. おわりに

本研究は、人口減少が進む香取市を、弓道により地域活性化することを考察した。高等学校授業に取り組み、人口の拡大をはかり、さらに大会と地域イベントを合同に開催することにより香取市の地域活性を推進した。本研究における仮説は、さらに検討することにより、精度を上げたいと考えている。

本研究についてご指導賜りました山本壽夫に心より感謝申し上げます。

(注) (1)香取市ウェブサイト「住民基本台帳の人口」

http://www.city.katori.lg.jp/government/jinko_tokei/jinko/index.html

(2)香取市ウェブサイト「平成26年版香取市統計書」

http://www.city.katori.lg.jp/government/jinko_tokei/tokeisho.html